

奪われた妻の生命

M・N

妻は、平成22年4月6日、4才と1才の息子を残して34才で命を奪われました。

次男と近所の公園に行く途中、四方が畑で見通しが良く、死角になる物も無い交差点で、妻が信号待ちをしていました。

青信号になり次男を抱いて横断し始めたところ、左後方から来た対向の直進車より先に右折をしようと交差点を急発進してきた大型車にはね飛ばされ、後輪で頭を轢かれ即死しました。

道路に脳漿をまき散らしながら、その手は子供を抱いたままの形で硬直し横たわっていたそうです。すぐ横で大きな声で泣き続けていた次男を、通りかかった方が救助してくれました。一番気がかりだったでしょう、我が子の安否も知らないまま、妻は死んでしまいました。

加害者は「見えなかっただけ」と証言し、禁固2年半、執行猶予5年の判決で、今も大型運転手を続けているそうです。

しかし、遮蔽物の無い交差点で右折するのにどこを見て曲がったのでしょうか。

横断歩道に歩行者がいるか確認するのは、運転手として最低限の確認行為の筈ですが、運転手は見えなかったと証言したのです。私たちは結婚してから子供に恵まれず、妻が苦しい不妊治療を6年間続け、やっと子供たちと巡り会う事が出来ました。

その後、次男も授かる事ができ、妻の設計で念願のマイホームを郊外に

建てました。楽しそうに設計士の方と打ち合わせをして、お腹に宿した次男と一緒に、何度も遠い建築現場へ通い夢を膨らましていました。

家が建ち、間もなく次男が生まれて、これから家族でどんな思い出を作っていくかと話しをしていた矢先でした。家族4人での幸せに過ごす未来を、無謀な運転により奪われてしまったのです。

私はいまだに元気な身体の妻と話す夢を見ますが、目覚めると現実に戻され、喪失感のあまり立ち上がる事さえ出来ません。

妻と対面した時は霊安室へ通され、あまりにも無惨な姿に泣き崩れ、抱きしめながら名前を叫んでいました。身体中傷だらけで、顔は平べったく、ブラックジャックのような縫合の痕、顔の脇には飛び出た何かを押さえているのか、大きなガーゼがあてがわれていました。

叫んでいても夢の中のように、何か叫んでいる演技でもしているような感じがしました。

なぜ私はここで、こんなことをしているのだろうと泣き叫ぶ自分と、受け入れていない自分がいました。

霊安室の天井を見つめる妻の虚ろな瞳、冷たく石のように硬くなった唇にキスをして抱きしめた感触が、今も鮮明に蘇ります。

葬儀の日までは子供達と棺の隣に眠り、毎日棺の窓越しに妻にキスをして布団に入りました。が、眠れるはずもなく、一晩中泣き明かしていました。

葬儀の準備や役所の手続き、警察の対応等、会社を休んで一人で動かなければいけません。その間も子供たちの幼稚園や保育園の段取りを進めて、

身体も精神もボロボロになり、体重も10キロ落ちてフラフラな状態でした。

葬儀が終わり火葬場に出棺するとき、今までずっと我慢していた長男が、大きな声で

「おかーさん」

と叫び泣いていました。

なぜ妻は子供たちと引き離されてしまったのでしょうか？

加害者は言っていました。『見えなかっただけ』と、それだけのことでした。横断歩道を横断している人を見えなかったとの一言で親子ともども跳ね飛ばして轢きつぶして行ったのです。

次男が助かったのは本当に奇跡だったと思います。妻が自分の命を犠牲に未来へ繋げた命です。本来ならば二人の命が奪われるところを、妻が懸命に次男を守ったのでしょう。

しかし、加害者の罪はさほど重くありません。執行猶予5年で、私に言わせれば無罪となんら変わりません。妻のこれから過ごしたであろう時間に比べたらと思うと悔しい限りです。刑事裁判で、謝罪を続けると言った言葉も判決後2箇月も経つと音信不通で着信拒否をされました。運転手の奥さんと連絡が取れたときは、「刑事裁判で判決が出ているのだから関係ない」と、刑事裁判での反省謝罪の言葉がどれほど罪を軽くするためだけの嘘で身勝手な物だったのか、その時に気づきました。

人は弱いもので、事件や事故を起こしても、謝罪よりもまずは自分自身を守るものと気づきました。加害者の謝罪の言葉を信じた私が愚かだった

たと言うことなのでしょう。

私自身も大きな事故を起こしてしまったときに、どれだけ謝罪をする事が出来るのか、償っても償いきれない罪を起こしてしまったときになにが出来ると考える事があります。

しかし、私が起こしたとしても、償い、許してもらえないでしょう。

だからこそ、事故や事件を起こさないように、

『当たり前ルールを守る』

これだけで、多くの命が救われて、平穏に暮らせる方たちが増えるのではと考えるようになりました。

多くの事故は不注意によるものだと思いますが、

- ・ よそ見をする
- ・ 徐行しない
- ・ 一時停止しない
- ・ 確認をしない

不注意と言ってしまうとそれで終わりですが、全て義務、やらなければいけない事を簡単に考えてしまい、起きている事故が多いのではないのでしょうか。

確認を実践するだけで、かなりの事故が防げるはずですが、一度起きてしまえば、命は何をしても取り戻せないのです。そうなる前に、今一度、安全についてよく考えていただきたい。

悲しい家族を増やさないように、加害者にも被害者にもならないように、運転に努めてほしいと切に願います。

事故を無くすのは簡単です。

『ルールを守る』

それだけで事故は無くなると確信します。

ただ皆が、自分は起こさないと考えて安易に車を運転し、事故が起きれば責任をとる事が出来ずに忘却してしまうのです。被害者のことなど、何も考えずに忘れようと罪が軽くなるようにと自身を守るようになってしまふのです。

被害者は、家族や身体のこと、精神的や金銭的なダメージを追いながらも日々生きるのに精一杯なのに……加害者にとっては嫌な思い出くらいで、時と共に罪の意識も薄らいでゆくのでしょう。

最後まで責任を持ち、亡くなった方の分も命がけで、一生償いに生きられる人はいないのではないのでしょうか。

ルールさえ守れば事故は無くなるのですが、皆が身勝手に

「自分は起こさない」

と考えるため、起きてしまえば運が悪かったと考える方が多いのではないのでしょうか。

事故が起きてしまつて「運が悪かった」のではなく、逆に起きなかったことのほうが不思議で「運が良かった」のです。

皆が一人一人、危険意識を持って安全に運転すれば、どれだけ事故が減る事でしょう。運転手だけでなく、歩行者や自転車も、ルールを守れば交通事故は減るのです。起きてからでは、取り返せないことが世の中にはあるのです。

私のような家族を増やさないようにして下さい。日常の努力で、必ず無くせる筈です。

そのためにはみんなが同じように考えなければいけません。誰も死にたくないし、家族が奪われることも納得は出来ない筈です。大切な人がある日突然だれかに理不尽に命を奪われる。それが許せる人間などいない筈です。

そのために何ができるか、どうすればよいか、少しだけ考えてください。